



授業サポート報告書③

実施日：2021年6月10日（木）4時限目（14:40～16:10）

授業科目：フレッシュャーズ・セミナー（担当教員：福 博充）

実施場所：53K教室

「フレッシュャーズ・セミナー」は経済学部経済学科1年生が履修できる専門選択科目で、大学で学ぶための基礎（アカデミック・スキル）を習得する授業です。

複数の先生方が各クラスを担当しますが、今回授業サポートを行った福先生のクラスでは、LTD（話し合い学習法）（※）を用いての「大学の学び方」に関する文献の読解やSDGsをテーマとしたプレゼンテーション及びレポート作成を通して、「読む」「話し合う」「発表する」「書く」といったスキルを、主体的に仲間と身につけ、自ら「問い」を立て、それに対する主張を、根拠をもって論理的に伝えるという大学での学びに必要な思考力を鍛えます。

2021年度はコロナ禍のため授業形態が変動する中で、ピアサポーター2名が当該授業のサポートに入りました。

取材当日は当該授業最終日であり、前回授業までのグループワーク、プレゼンテーション発表会を経てチームで作成したレポートの見直しと、今学期の授業の振り返りが行われました。

取材当日の「授業の目標」

- ・レポートをチームで見直し、作成する際の注意点を今後のレポート作成に応用できる。
- ・今学期の授業における自らの学びをチームの仲間とともに振り返り、これからの大学での学びに生かすことができる。

第7回目の授業で後半のチームメンバーが決まり、そのメンバーとプレゼンテーションやレポート作成をすすめていたことなどから、チーム内での話し合いは円滑に進んでいましたが、ピアサポーターはそれぞれのチームを見て回り、よりディスカッションが活性化するような質問を投げかけることで、チーム全員が自分の考えを話せる「場作り」のサポートを行いました。先生がピアサポーター活用にあたり望んでいた「教員とピアサポーターで丁寧な観察することで、受講者の深い思考力を深める事ができる」効果が、随所に見られる授業風景でした。

こういった教員とサポーターの連携は、毎回の授業直後に、ピアサポーターと先生でその日の授業の振り返りを口頭で共有し、そのあとにピアサポーターは業務日誌を書いて先生に提出することで、サポーター自身が気づいたことや不安を次のサポートへと繋げたことから生まれたものです。「今後」を意識しながら継続的にサポーターと教員で振り返ることは授業サポートのみならず、授業全体へもよい効果をもたらし、全員が「自分ごと」として授業を作り上げている、主体性のある学びの場を作り出していることが感じられました。

また、授業の合間には受講者が上級生であるサポーターに「大学の授業って全部こんな感じなのですか？」「高校と全然違いますよね？」という質問を投げかけ、先輩から今後の「大学での学び」について意欲的に聞き出している様子も見受けられました。

学生同士の交流や、授業運営においてもさまざまな制限がある状況ですが、ピアサポーターは教員・職員・学生で授業を作り上げる一助となり、大学全体の繋がりをより強固なものにしていきたいと考えています。

※LTD（話し合い学習法）＝Learning Through Discussion。個人の予習だけではなく、仲間との教え合いや学び合いを通して、学習教材を深く読み解くことを目的とした実践的な学習法。

当日の様子



受講生と一緒に本日の授業の流れを確認します



グループワーク中、ピアサポーターは各自の判断でサポートするチームを決め、ファシリテーションを行います



授業のWebClassをピアサポーターが確認できるように先生が設定しているので、チームメンバーとレポートを一緒に見直すことができます



受講者が筆記作業をしている間は、サポーター間または先生と情報共有を行います
先生・サポーター双方共に真摯な姿勢が印象的でした



授業後には別教室へ移動し（オンライン授業の場合はZOOMで）、毎回サポートの振り返りを行います最終日なので、授業全体の総まとめを行いました